

安全データシート

作成日 2013年 2月16日

改訂日 2021年10月28日 1/8頁

SDS No.1010-44007

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : キャピラリーカラム検査試料 G
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1010-44007、1021-
整理番号(SDS No.) : 1010-44007
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2 (血管系)
区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
水生環境有害性 短期 (急性) : 区分1
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H225 引火性の高い液体および蒸気
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)
H336 眠気やめまいのおそれ(麻酔作用)
H371 臓器の障害のおそれ (神経系)
H400 水生生物に非常に強い毒性
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策] :

P210 熱、高温のもの、火花、裸火、及び着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取り扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271 屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護めがね/保護面を着用すること。

[応急措置]	:	
P302+P352	:	皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
P303+P361+P353	:	皮膚または髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水/シャワーで洗うこと。
P304+P340	:	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	:	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P311	:	ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P312	:	気分が悪いときは医師に連絡すること。
P332+P313	:	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
P337+P313	:	眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P362+P364	:	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+378	:	火災の場合：消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	:	漏出物を回収すること。
[保管]	:	
P403+P233+P235	:	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
P405	:	施錠して保管すること。
[廃棄]	:	
P501	:	内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	:	混合物
化学名または一般名	:	キャピラリーカラム検査試料 G

化学名(又は一般名)	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
シクロヘキサン	>99%	C ₆ H ₁₂	3-2233	--	110-82-7
n-ヘキサデカン	0.1%	C ₆ H ₃₄	2-10	--	544-76-3
ジシクロヘキシルアミン	0.1%	C ₁₂ H ₂₃ N	3-2259 / 3-2686	--	101-83-7
ウンデカン酸メチル	0.1%	C ₁₂ H ₂₄ O ₂	2-798	--	1731-86-8
1-デカノール	0.1%	C ₁₀ H ₂₂ O	2-217	--	112-30-1
n-オクタデカン	0.1%	C ₁₈ H ₃₈	2-10	--	593-45-3
n-ヘキサン酸	0.1%	C ₆ H ₁₂ O ₂	2-608	--	142-62-1
2,6-ジメチルフェノール	0.1%	C ₈ H ₁₀ O	3-521 / 4-57	--	576-26-1
3,5-ジメチルアニリン	0.1%	C ₈ H ₁₁ N	3-129	--	108-69-0
n-エイコサン	0.1%	C ₂₀ H ₄₂	2-10	--	112-95-8

4 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	:	石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
眼に入った場合	:	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。

暴露した場合	: 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
急性症状および遅発性症状の 最も重要な徴候症状	: 蒸気吸入により、一時的な呼吸器刺激性、めまい、衰弱、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。誤飲により腹痛やめまいが生じる。
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	: 棒状水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行き、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除く。密閉できる空容器に集めて適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
安全取扱注意事項	: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスを発生させない。 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
衛生対策	: 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。
保管	
適切な保管条件	: 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。 容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。
避けるべき保管条件	: 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。
技術的対策	: 換気のよい場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。
混触危険物質	: 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。
安全な容器包装材料	: ガラス等

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 許容濃度 :

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA
シクロヘキサン	設定されていない	150 ppm	100 ppm
2,6-ジメチルフェノール	設定されていない		1 ppm
3,5-ジメチルアニリン	設定されていない		0.5 ppm
その他の成分	設定されていない		

保護具

呼吸器の保護具 : 保護マスク
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
眼の保護具 : 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

製剤としてのデータがないため、シクロヘキサンのデータを記載する。

物理状態 : 液体
色 : 無色
臭い : 石油ベンジン臭
融点/凝固点 : 6.0~7.0℃
沸点または初留点 : 80.7℃
可燃性 : データなし
爆発下限界及び爆発上限界 : 1.33%(加減)~8.35%(上限)
引火点 : -20℃ (タグ密閉式)
自然発火点 : 245~260℃
分解温度 : データなし
pH : データなし
動粘性率 : データなし
溶解度 : 水に難溶
溶媒に対する溶解性 : エタノール、ジエチルエーテル等ほとんどの有機溶媒に任意の割合で混和する。
n-オクタノール/水分分配係数
log Po/w : 3.4
蒸気圧 : 13.0 kPa (25℃)
密度及び/または相対密度 : 0.78g/mL (20℃)
相対ガス密度(空気=1) : 2.9
粒子特性 : 該当しない

10 安定性及び反応性

反応性 : 熱に不安定。移送時の流動、噴霧、漏れ等の際に静電気を発生しやすく、僅かな放電で引火する危険がある。
化学的安定性 : 熱に不安定。移送時の流動、噴霧、漏れ等の際に静電気を発生しやすく、僅かな放電で引火する危険がある。
危険有害反応可能性 : 酸化剤や過酸化剤との接触で火災や爆発を起こすことがある。
避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質との接触
混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素など

1.1 有害性情報

- 急性毒性(経口) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(経皮) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(吸入：蒸気) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(吸入：粉じん、ミスト) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2の成分合計が99.1%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2に該当。
- (2,6-ジメチルフェノール) : 本物質は皮膚に対して腐食性を示す(環境省リスク評価第5巻(2006))との記載や、化学熱傷が生じると考えられるとの記載(NITE初期リスク評価書(2008))がある。また、ラット、ウサギ、モルモットの皮膚に局所適用すると適用部位に刺激性を示し、潰瘍を生じる(NITE初期リスク評価書(2008))との記載がある。また、本物質はウサギの皮膚への適用で腐食性を有するとの記載がある(NITE初期リスク評価書(2008))。本物質はEU CLP分類において「Skin. Corr. 1B H314」に分類されている(ECHA CL Inventory (Access on October 2015))。
- (ジシクロヘキシルアミン) : ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験において6匹に24時間塗布し21日間観察した結果、24-72時間の皮膚一次刺激指数の平均スコアは腐食性(corrosive)(HSDB(2003))と判定され、他の試験でも、重度の腐食性(highly corrosive)(IUCLID(2000))や即時性の壊死形成(immediate necrosis)(IUCLID(2000))などの報告がある。
- (n-ヘキサン酸) : ウサギを用いた試験(OECD TG 404 : GLP準拠)において壊死(necrosis)とその後の瘢痕形成(scar formation)がみられ、適用後21日間瘢痕が残留している(BUA Report 241(2002))。
- (シクロヘキサン) : ウサギ及びヒトにおいて皮膚刺激性があるとの記載(DFGOT vol.13(1999)、EU-RAR(2004)、ACGIH(7th, 2002)、ICSC(J)(1994))がある。ウサギでは反復投与により皮膚に亀裂を生じ出血を認めたと、投与終了後1週間では軽快し(DFGOT vol.13(1999))、ヒトに原液を1時間付着させた場合、発赤とみみずばれを生じたとの記載(EU-RAR(2004))があるが、これも回復性の障害と考えられる。
- 眼に対する重篤な損傷性/
眼刺激性 : 眼区分2の成分合計が99.2%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2Aに該当。
- (2,6-ジメチルフェノール) : 本物質はウサギの眼に対して刺激性を有する(NITE初期リスク評価書(2008))との記載や、眼に対して腐食性を示す(環境省リスク評価第5巻(2006))との記載がある。また、本物質は皮膚腐食性/刺激性の分類で区分1に分類されている。
- (ジシクロヘキシルアミン) : 皮膚腐食性で区分1に分類されている。
- (n-ヘキサン酸) : ウサギを用いた試験において角膜に重度の熱傷(severe burn)がみられ(PATTY 5th(2001))、かつ、皮膚に対し腐食性として区分されている。
- (シクロヘキサン) : ウサギで角膜混濁、虹彩炎、結膜充血・浮腫がいずれも可逆的にみられた(EU-RAR(2004))ほか、動物及びヒトで眼に刺激性があるとの記載(PATTY(6th, 2012)、EU-RAR(2004)、ICSC(J)(1994)、HSDB(Access on July 2013))がある。
- (1-デカノール) : ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG405, GLP)で本物質(Kalcohol 1095 : C10 95%超)原液を適用したところ、48時間後に軽度から中等度の結膜炎、ごく軽度から軽度の角膜混濁と虹彩炎が全例に見られた。4日目にも全例に軽度の結膜炎、1例にわずかな領域で角膜混濁が見られ、軽度の結膜炎は適用後15日目まで続いたとの報告がある(SIDS Dossier(2006))。本物質はウサギの眼に対して刺激性を示すことが報告されている(SIDS(2006)、Patty(12th, 2012))。ウサギを用いた眼刺激性試験(EPA OPPTS 870.2400, GLP, n=3)で本物質(Alfol 10)原液を適用したところ、結膜スコア : 2、結膜浮腫スコア : 1.4が得られ、7日以内で共に回復したとの報告がある(REACH登録情報(Accessed Oct. 2018))。
- 呼吸器感作性 : データ不足
- 皮膚感作性 : データ不足
- 生殖細胞変異原性 : データ不足
- 発がん性 : データ不足
- 生殖毒性 : 毒性未知成分を含有しているため、分類できない。
- 特定標的臓器毒性
(単回ばく露) : シクロヘキサンが99.1% \geq 10%のため、区分2(血管系)に該当。区分3(気道刺激性、麻酔作用)の成分合計が99.1%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分3(気道刺激性、麻酔作用)に該当する。

- (2,6-ジメチルフェノール) : 本物質のヒトデータはないが、実験動物では、本物質のラット、マウス吸入ばく露 (0.27 mg/L、区分1相当) で、呼吸障害、れん縮性振戦の報告がある (NITE初期リスク評価書 (2008)、HSDB (Access on October 2015))。本物質はフェノールに類似の毒性を示すと報告されており (NITE初期リスク評価書 (2008)、環境省リスク評価第5巻 (2006)、HSDB (Access on October 2015))、フェノールから推定される毒性は、経口ばく露あるいは経皮ばく露で粘膜腐食性による灼熱感、頭痛、眩暈、吐き気、腹痛、嘔吐、下痢、筋肉れん縮、中枢神経抑制、意識喪失、吸入ばく露で、気道刺激性、頭痛、咳、衰弱、吐き気、嘔吐、感覚異常、アルブミン尿症であるとの記載がある (NITE初期リスク評価書 (2008)、HSDB (Access on October 2015)、環境省リスク評価第5巻 (2006))。
- (3,5-ジメチルアニリン) : ラットに単回経口投与した試験において、メトヘモグロビン濃度は4.80 mmol/kg(580 mg/kg)群で3時間後に最高値の32.7%を示し、また、ガイダンス値区分1に相当する1.2 mmol/kg(145 mg/kg)以上の群では5%(対照群は4.96%)を超え、本物質のメトヘモグロビン生成能は他の異性体に比べ高いと報告されている(環境省リスク評価 第7巻(2009))。なお、ヒトでは、本物質を高濃度ばく露すると、意識低下を起し、メトヘモグロビンを生成することがあり、吸入すると眩暈や嗜眠、頭痛、吐き気、経口摂取すると唇や爪、皮膚のチアノーゼ、眩暈、嗜眠、頭痛、吐き気、意識喪失を生じる(環境省リスク評価 第7巻(2009))と記載されている。
- (シクロヘキサン) : 多くの動物種において、吸入ばく露による中枢抑制作用が報告されており (ACGIH(7th, 2002))、麻酔作用があると考えられるが、ばく露濃度が明らかではない。ウサギの経口投与において、区分2のガイダンス値範囲内の用量で血管損傷がみられたとの記述がある (ACGIH(7th, 2002))。

特定標的臓器毒性

- (反復ばく露) : 毒性未知成分が1%以上なので、分類できない。
- (2,6-ジメチルフェノール) : ヒトに関する情報は得られていない。
実験動物に関して、経口経路では、ラットを用いた28日間強制経口投与毒性試験において、区分2の範囲内である400 mg/kg/day (90日換算値=88.9 mg/kg/day) の雌雄で肝臓重量の有意な増加、運動失調、流涎、脾臓での髄外造血、雌で貧血の報告 (環境省リスク評価第5巻 (2006))、ラットを用いた8ヶ月間反復経口投与毒性試験において、区分1の範囲内である6 mg/kg/day群で主に肝臓、腎臓、脾臓の病理組織学的変化 (肝細胞の脂肪変性、腎臓の硝子滴変性、脾臓の骨髄性細胞及び網内系細胞の増加、脾臓リンパ濾胞の萎縮) の報告がある (環境省リスク評価第5巻 (2006)、NITE初期リスク評価書 (2008)、IRIS Summary (1988))。
吸入経路では、ラットを用いた4.5ヶ月間吸入毒性試験において、区分1の範囲内である22 mg/m³群 (ガイダンス値換算 : 0.015 mg/L/6hr/day) でヘキサバルビタール睡眠時間の有意な延長、遊泳能力の障害、血中のカタラーゼ活性及びコリンエステラーゼ活性の有意な低下、体重及び肝臓重量の有意な減少、気道で気管周囲及び血管周囲性のリンパ球浸潤、気管及び主気管支粘膜の変性、肺胞の出血、肺胞壁の障害、肝臓で円形細胞浸潤や脂肪変性、腎臓で退行性変化、脾臓で白脾髄の増加と赤脾髄の鬱血、毛細管の肥厚が報告されている (環境省リスク評価第5巻 (2006))。
- (ジシクロヘキシルアミン) : ラットを用いた28日間の反復経口投与試験において70mg/kgの投与では、一般状態の観察において流涎や痙攣が認められ、被験物質による自律神経に対する毒性学的影響が疑われることから、無影響量は雌雄とも20mg/kgである(厚労省報告 (2008))との報告がある。NOEL20mg/kgの90日換算値は64mg/kgとなり、ガイダンス値の区分2の範囲内に該当する。

誤えん有害性 : 動粘性率が不明のため、分類できない。

1.2 環境影響情報

- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分1×毒性乗率が99.2%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。
- (シクロヘキサン) : 甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=0.9 mg/L(EU-RAR, 2004)である。
- (1-デカノール) : 藻類 (ムシカキモ) 72時間EC50 (生長速度) = 0.56 mg/L(環境省生態影響試験: 2018)である。
- (2,6-ジメチルフェノール) : 甲殻類(ブラインシュリンプ)48時間LC50 = 2.2 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008)である。
- (ジシクロヘキシルアミン) : 甲殻類(オオミジンコ)48時間EC50 (遊泳障害)= 8.0 mg/L (環境省生態影響試験: 2018、環境省リスク評価第14巻: 2016)である。
- (n-ヘキサン酸) : 魚類(ファットヘッドミノー)での96時間LC50 = 88 mg/L(AQUIRE, 2010; HSDB, 2006; BUA 241, 2002)である。
- (3,5-ジメチルアニリン) : 甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=2.2mg/L(環境省生態影響試験, 1997; 環境省リスク評価第7巻, 2009)である。

水生環境有害性 長期(慢性)	: (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が112.2%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。
(1-デカノール)	: 急速分解性があり(良分解、類似化学物質の分解性との比較により判定(化審法DB:2012)、藻類(ムシカヅキ)の72時間NOEC(生長速度)= 0.028 mg/L(環境省生態影響試験: 2018)である。
(シクロヘキサン)	: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(OECDテストガイドライン301Fによる28日間の分解度: 77%(EU-RAR, 2004))、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)による72時間NOEC=0.94 mg/L(EU-RAR, 2004)である。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=0.9 mg/L(EU-RAR, 2004)であるが、急速分解性があり(OECDテストガイドライン301Fによる28日間の分解度: 77%(EU-RAR, 2004))、生物濃縮性が低いと推測される(BCF=31-129(既存点検, 1984))。
(2,6-ジメチルフェノール)	: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(難分解性、28日でのBOD分解度=2%、HPLC分解度=1%(経済産業公報, 2003))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖)=0.538 mg/L(環境省リスク評価第5巻, 2006)である。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく、魚類(メダカ)の96時間LC50 = 15.4 mg/L(環境省リスク評価第5巻, 2006)である。
(ジシクロヘキシルアミン)	: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性、BODによる分解度: 76.9%(化審法DB: 1976))、藻類(Desmodesmus subspicatus)の72時間NOEC(生長速度)=0.016 mg/L(OECD SIDS: 2006、環境省リスク評価第14巻: 2016)、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖阻害)=0.016 mg/L(OECD SIDS: 2006)である。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性、BODによる分解度: 76.9%(化審法DB: 1976))、魚類(メダカ)の96時間LC50 = 12 mg/L(環境省生態影響試験: 2018、環境省リスク評価第14巻: 2016、OECD SIDS: 2018)である。
(n-ヘキサン酸)	: 急性毒性区分3であり、急速分解性に関する信頼性があるデータがない。
(3,5-ジメチルアニリン)	: 慢性データを用いた場合、急速分解性がなく(難分解性、BOD3%(既存点検, 1990))、甲殻類(オオミジンコ)による21日間NOEC=0.03mg/L(環境省生態影響試験, 1997)である。慢性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(難分解性、BOD3%(既存点検, 1990))、魚類(メダカ)による96時間LC50=33.9mg/L(環境省生態影響試験, 2000)である。
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: 1145
Proper Shipping Name	: CYCLOHEXANE
Class	: 3
Packing Group	: II
Marine Pollutant	: Not Applicable
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: 1145
Proper Shipping Name	: Cyclohexane
Class	: 3
Packing Group	: II
国内規制	
陸上規制	: 国内法令の規定に従う。
海上規制	: 船舶安全法の規定に従う。
国連番号	: 1145

品名	: シクロヘキサン
クラス	: 3
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
国連番号	: 1145
品名	: シクロヘキサン
クラス	: 3
容器等級	: II
緊急時応急措置指針番号	: 128

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 135(3,5-ジメチルアニリン)、232(シクロヘキサン) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
化管法	: 非該当
化審法	: 優先評価化学物質(法第2条第5項)
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体 (法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
船舶安全法(危規則)	: 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質(施行令別表第1) 危険物(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
大気汚染防止法	: 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
土壌汚染対策法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第62版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。